

2005年度 IA サーバ国内出荷調査報告

ノークリサーチ(本社〒124-0001 東京都葛飾区小菅 4-12-5: 代表伊嶋謙二 03-5629-2163、URL: <http://www.norkresearch.co.jp>)では 05 年度の国内 IA サーバの出荷状況を調査した。06 年度の予測も併せて調査、報告している。

<05 年度 IA サーバ市場のポイント>

05 年度 IA サーバ市場は 3 年連続で高成長。市場規模は 50 万台突破

- 台数は対前年比 17.1%アップで、519,900 台へ

- 金額市場は昨年から 2 年続けてプラス成長。今後平均単価は徐々に下げ止まり傾向に

景気の流れは確実に回復基調。好調を支えたネットワーク関連の新規需要

シェアは NEC がトップ維持。しかしデル、日本 HP も加えた 3 強時代に突入

目立つ大型案件。NEC、デルは上期だけで、あわせて 1 万台以上の大規模受注

タワー、ラック(薄型)、ブレードそれぞれに堅調に増加。小型・集約化もポイント

06 年度はサーバの増勢傾向続き 10.2%増で 57 万台市場へ突入

対象期間: (05 年度実績) 05 年 4 月から 06 年 3 月

(06 年度予測) 06 年 4 月から 07 年 3 月

対象メーカー: 電子情報技術産業協会 (JEITA) 自主統計参加及び未参加メーカー

日本電気、富士通、デル、日本 IBM、日本 HP、日立製作所、東芝、三菱電機など

対象機種: 電子情報技術産業協会 (JEITA) 定義に準ずる

調査方法: 当該メーカーに対する直接取材及び弊社データベースによる分析

調査時期: 06 年 5 月

[05 年度出荷状況]

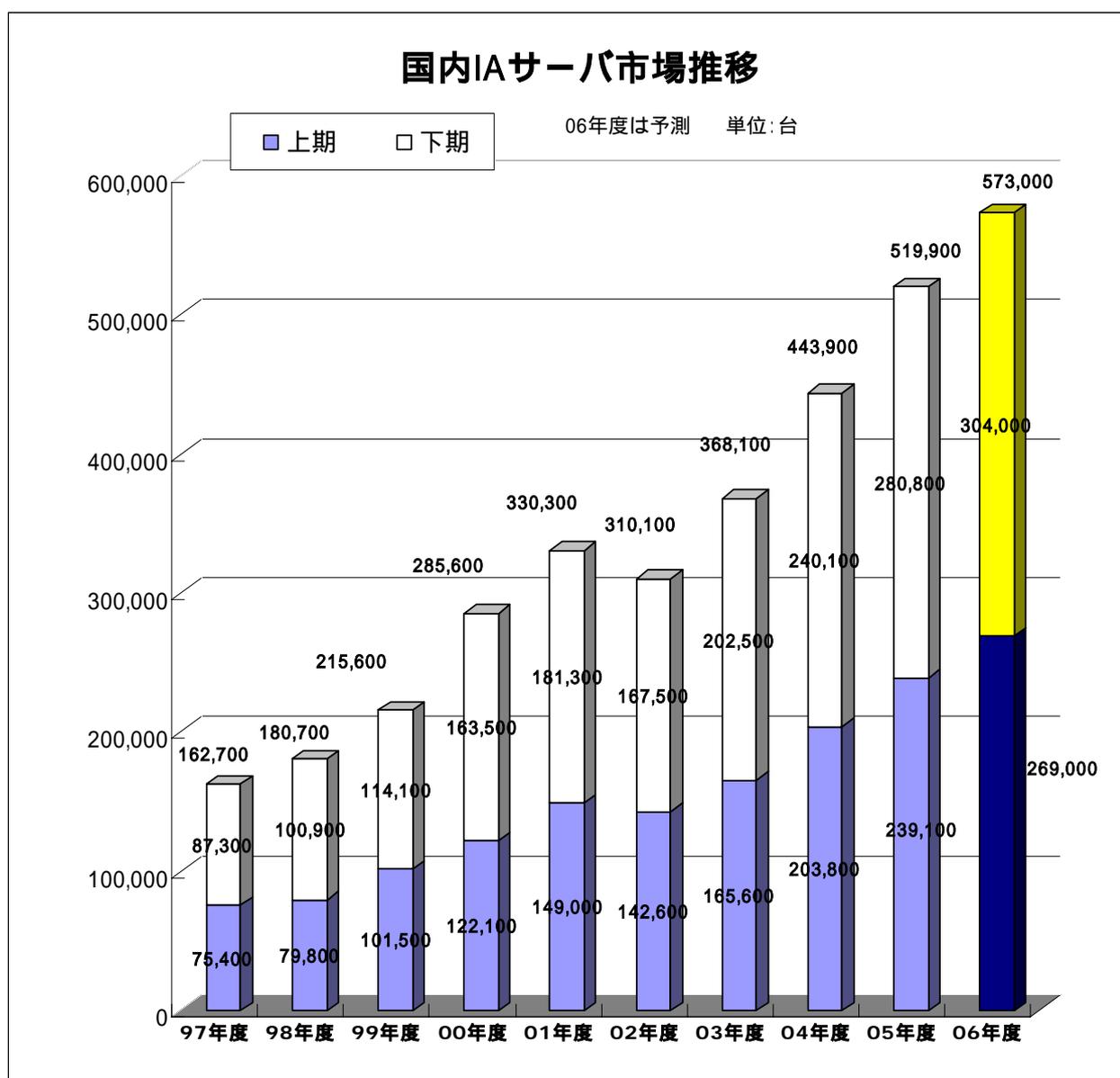
- 対前年比 17.1%アップで、市場は 519,900 台へ -

05 年度は対前年比 17.1%アップで、519,900 台市場となった。3 期連続で 2 桁の高い成長を示した。04 年度以降は全体的な景況感が良好で、投資意欲が上昇したことが最も大きな要因だ。特に製造業、流通業の中堅から大手企業を中心に情報系サーバの増設利用が目立った。金融業、証券も好調に推移した。特に大都市圏を中心としたインターネット関連企業なども需要を牽引している。いわゆるネットワーク関連企業、需要が極めて好調なことが、サーバ市場にドライブをかけている。その中には NEC のネット系企業へのブレード、デルの製造業大手企業へのタワー型サーバのロット商談に見られるような超大型案件の存在も、サーバ市場高成長の要因となっている。

金額市場は、1way タワーの低価格サーバの需要も目立ち、平均単価の下落傾向は続いている。だが一方では 2P ラック型サーバ、ブレード型サーバなどの増加により極端な平均単価の下落とまではいかず、金額市場は 2 年連続プラス成長で 4.8%アップの 2,911 億円となっている。むしろ平均単価は下げ止まりの傾向といえよう。

国内IAサーバ総出荷台数推移/予測（97年度から2005年度実績、2006年度予測）

	上期	前年同期比	下期	前年同期比	合計	前年比
97年度	75,400	151.4%	87,300	124.0%	162,700	135.4%
98年度	79,800	105.8%	100,900	115.6%	180,700	111.1%
99年度	101,500	127.2%	114,100	113.1%	215,600	119.3%
00年度	122,100	120.3%	163,500	143.3%	285,600	132.5%
01年度	149,000	122.0%	181,300	110.9%	330,300	115.7%
02年度	142,600	95.7%	167,500	92.4%	310,100	93.9%
03年度	165,600	116.1%	202,500	120.9%	368,100	118.7%
04年度	203,800	123.1%	240,100	118.6%	443,900	120.6%
05年度	239,100	117.3%	280,800	117.0%	519,900	117.1%
06年度	269,000	112.5%	304,000	108.3%	573,000	110.2%



[05年度メーカーシェア]

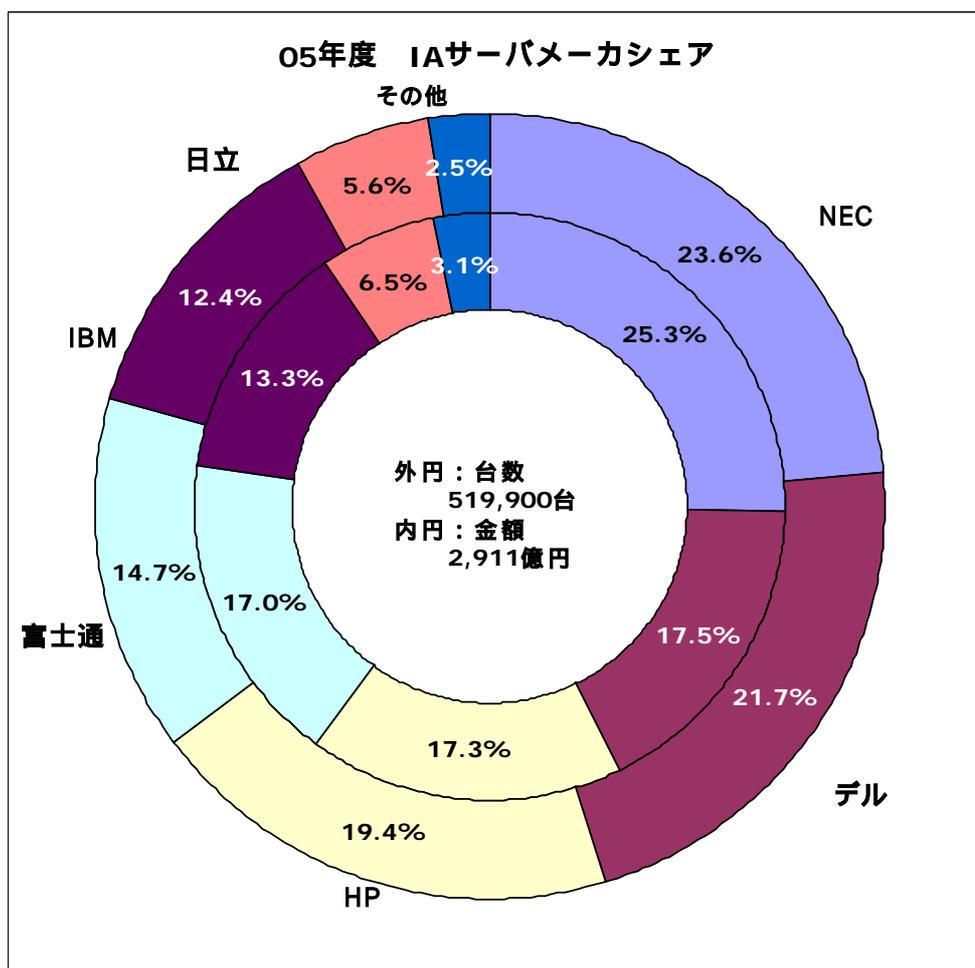
- NEC が依然としてトップ維持。しかしデル、HP も加えた 3 強時代へ突入

メーカーシェアでは NEC が 23.6%のシェアで依然トップを維持している。ただしデルは上期の大型受注と下期も堅調な低価格攻勢でトップ NEC に約 2 ポイント差の 21.7%と接近している。また HP は下期にかけてネットワーク関連の需要に SI チャンネルの攻勢とデルに引けをとらない低価格戦略で巻き返しに成功。シェアは 19.4%となり、NEC、デル、HP の 3 強時代へ突入した感がある。相対的に富士通、IBM はシェアを落としている。

トップ NEC の強さは 3 点ある。全国の地域販売店のチャンネル販売 官公庁、大企業向けの直販力 幅広い製品対応力だ。つまりチャンネル販売、直販、製品のバランスの良さが強さの要因だ。端的な実績では、話題性の高いブレードで千台規模の大口案件を複数受注などが代表例だ。業種別では製造業をはじめ、インターネット関連の通信業界に対する、積極的な攻略で大口需要を得ている。

2 番手のデルは独自の直販方式で、低価格とデリバリ、サポートの良さなどの機動力を生かして、中堅以下の企業の IT 部門を中心とした高いユーザ指名力が強みだ。多くの SI 企業がデルの好調を支えているのも事実である。またデルの高成長には上期での製造業大手企業への 6,500 台の大型受注も効いている。HP は上期時点では上位 2 社に若干差をつけられていたが、下期後半から低価格サーバと SI、大手チャンネルによるネットワーク関連で大きく巻き返しに成功した。特に得意の 2P のラックが堅調に推移した。

富士通、IBM は上位 3 社に比べ台数的な伸びが低いためにシェアは落としている。台数シェア獲得には低価格サーバと大型案件が不可欠だ。NEC などトップ 3 社に比べ明らかに方向性の違いを見せている。つまり低単価のサーバビジネスへの取り組みやターゲットユーザ層の違いが見られる。両者には台数よりも 1 件当たりの単価、付加価値を重視するという共通点がある。



[06 年度市場展望]

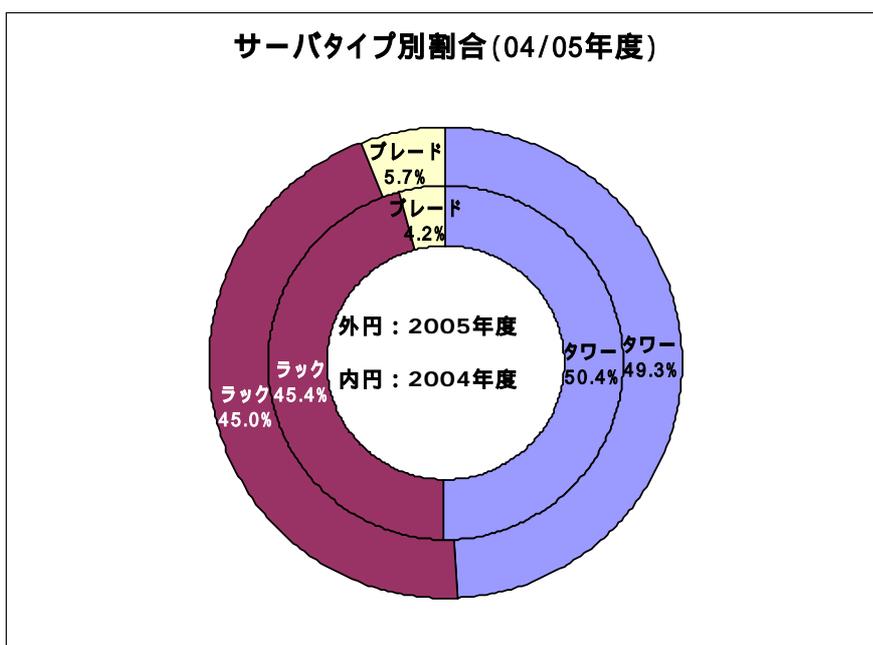
- 06 年度は 10.2%増で 57 万台市場へ突入

06 年度トータルでは 573,000 台、10.2%の伸びで、57 万台超の市場となることが予想される。

IA サーバ市場は 3 期続けて 2 桁の高い成長を示した。その要因は 3 つあり 景気の回復による投資意欲の増加 ネットワーク企業、事業による新規サーバ導入の増加 低価格サーバによるアプライアンス導入の積極化の 3 点だ。

06 年は景気回復もさらに進むことが予想され、中堅企業から大企業を中心にサーバへの投資意欲はさらに高まることが予想される。中小企業においても情報インフラ系の導入がさらに進み、全国規模で導入が活発化することが予想される。ネットワーク系でのサーバの導入は未だにそのペースが緩んでいない。ネットワークインフラだけでなく、ワンセグや web 系の新サービスなどによる需要増は新たなサーバ需要を生み出すだろう。

フォームファクター（サーバ形状）でみると 1P のタワー型によるエントリ、2P のラックとも好調に推移している。そのため近い将来、タワー型がすぐさまラックやブレードにシフトすることはないだろう。ただしサーバの小型・集約化は間違いなく進行する。現状ブレードはまだ 5.7%の割合だが、確実にその成長の輪郭が見えてきている。クラスター的な用途以外のサーバ統合や特にネット関連で急激に増加したユーザに対応するなど、新規ネットサービス展開している企業などでの需要が最も期待される分野だ。ブレードは 1 件あたりの台数が多いために 06 年度は案件も増えることが予想され、トータルで 10%程度の割合まで伸びることが見込まれる。



当調査データに関するお問い合わせ



ノーク・リサーチ
 担当：伊嶋 謙二 いしま
 e-mail: pressr@norkresearch.co.jp
 〒124-0001 東京都葛飾区小菅 4 - 12 - 5
 電話 5629 - 2163 FAX 5629 - 2164
 URL: <http://www.norkresearch.co.jp>